

【第1部】

神靈矢口渡

平賀源内作



- 香川第一中学校郷土研究部公演 -

歌舞伎『神靈矢口渡』のあらすじ.....

渡し守の頓兵衛宅の家に一夜の宿を求めて、
新田義峯にったよしみねと傾城けいせい「うてな」がやってきます。二人は
恋人で追っ手を逃れてきたのです。頓兵衛の娘お舟
は、義峰に一目惚れしてしまいます、そのため、かなわぬ恋と知りながら、追手の足利方に味方する父を裏切って、二人を逃しました。それを知った頓兵衛は後を追おうとします。説得のため立ちふさがるお舟を切り捨て、あとを追って行きます。瀕死のお舟は二人を逃すために、太鼓をたたいて追ってを欺むきます。追いすぎる頓兵衛に、天から飛んできた新田家重宝の矢（水破兵破）が貫きます。.....と
言うような悲恋物語です。

【第2部】

一谷嫩軍記 熊谷陣屋の殺

- 「祇園座」公演 -

「一谷嫩軍記」のあらすじ.....



源義経よしつねは熊谷直実なほみに「一枝を刈らば一指を剪るべし」の制札を与え、桜の花にたとえて平家の公達の命を助けよとの意をほのめかす。熊谷は、元々平家筋の人間で、後白河院に仕えたことがあった。その当時相模さがみと密通し罪に問われるところを敦盛あつむねの生母藤ふじの方に救われた。

場面は変わり、熊谷の妻相模は、わが子小次郎の安否を気遣って生田森いくたのもりの陣所を訪れる。

藤の方は、熊谷を仇とねらうが、義経の前で敦盛の首実検が行われると、意外な真相が判明する。熊谷は義経の意を体し、藤の方から受けた恩を返すため、須磨浦で敦盛を討つとみせて実は小次郎を身代りに立てたのだった。

一方、義経は、ひそかに平家の菩提を弔う石屋弥陀六みだろくを弥平兵衛宗清やへいびょうえむねきよと見破り、幼時に助命された恩を謝し、贈り物として敦盛を隠した鎧櫃よろいびつを与える。

我が子を犠牲にしてまで貫かねばならない武士の無情さを悟った熊谷は出家して小次郎を弔う。